

## 法文学部（法学・政策学履修コース）アセスメントプラン

### 1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

### 2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、法文学部法学・政策学履修コースのディプロマ・ポリシーにおいて定めている。ディプロマ・ポリシーにおいては、社会科学の知識と分析手法とを根底に置きつつ、現代社会における公共性を捉え直し、法制度の下での政策を再構築する能力を有する人材の育成を目指している。演習成果の論文等においては、グローバル化した現代社会の様々な問題は相互に密接な関係にあることから、「これらの諸問題の本質を見極め、原因を究明する能力を身につけていること」「その解決策を提言するための、法律学・政治学・経済学などの社会科学に関する総合的かつ体系的な知識を身につけていること」といった基準を満たすものについて合格と判定している。加えて「演習成果の論文等ルーブリック」において7つの観点のうち5つ以上で、3段階以上（5段階中）に到達することを目標としている。

### 3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	新入生アンケート	毎年4月	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援や初年次教育などカリキュラムの改善、自己点検・評価、情報公開に活用
2	学年末アンケート	毎年1-3月	全学年	学習行動、授業・カリキュラム満足度	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業予定者アンケート	毎年1-3月	4年生	在学中の状況、愛大学生コンピテンシーの習得状況	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	成績不振学生の調査	毎年2回	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、休学者数）	修学支援システム	教育・学生支援機構／各学部	各学部が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
5	休退学調査	毎年2回	全学年	休学者数、退学者数 休退学の理由	修学支援システム	教育・学生支援機構／各学部	各学部が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
6	学生モニター会議	ニーズに応じて	全学年 (学生代表者)	学習行動、授業・カリキュラム満足度	インタビュー調査	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が各学部に報告し、授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価に活用
7	学生代表者会議	毎年1回	全学年 (学生代表者)	キャンパスライフ、カリキュラム満足度、大学への要望	学長と意見交換	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が関係部署に報告し、学生へのフィードバックを検討
8	卒業者の進路状況	毎年1回	4年生	卒業者の進路（就職率、県内就職率、進学率）、就職支援への評価	修学支援システム	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	卒業生調査	毎年1回	卒業後3年経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身につけた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

10	授業評価アンケート	毎年2回 (学期ごと)	全学年	学習の状況、授業の満足度	Webアンケート	法文学部教育コーディネーター会議	科目担当教員に伝え、専門教育の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
11	学生代表者との意見交換	毎年1回	全学年	本学部への要望・満足度、学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	対面又は遠隔により教員と意見交換	法文学部教育コーディネーター会議および学生支援委員会	学生の意見を聴いて、授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価に活用
12	ディプロマ・ポリシーに関するアンケート	毎年1回	在学生 (2・3年生)	ディプロマ・ポリシーの習得状況	Webアンケート	法文学部自己点検評価委員会	記名式アンケートにより、個々の学生の学習状況を継続的に把握し、卒業までにDPを達成できるように指導するために活用
13	卒業生への意見聴取	毎年1回	卒業生 (卒業5年後 (3年後以降予定)および10年後)	愛大学生コンピテンシーの習得状況	Webアンケート	法文学部自己点検評価委員会	学部教育改善の参考資料として、自己点検・評価に活用
14	卒業生の就職先等への意見聴取	概ね3年に1回程度	卒業生の雇用者など	採用状況、採用時に重要視する能力、愛大学生コンピテンシーの習得状況など	Webアンケート	法文学部自己点検評価委員会	本学部卒業生に対する第三者評価と学部が掲げる目標に沿った学習成果の確認を行い、今後の学部教育改善の参考資料とする、自己点検・評価に活用
15	外部有識者懇談会	毎年1回	外部有識者	法文学部への意見、提言など	意見交換	法文学部	地域との密接な繋がり構築、第三者評価としてより効果的な学びの展開に活用
16	卒業論文ならびに演習科目の成果論文ループリック	毎年1回	4年生	卒業研究の成果に対するDPの各項目の達成度の評価	ループリック	法文学部教育コーディネーター	ループリックを使用して、ディプロマ・ポリシーの達成度の評価に活用